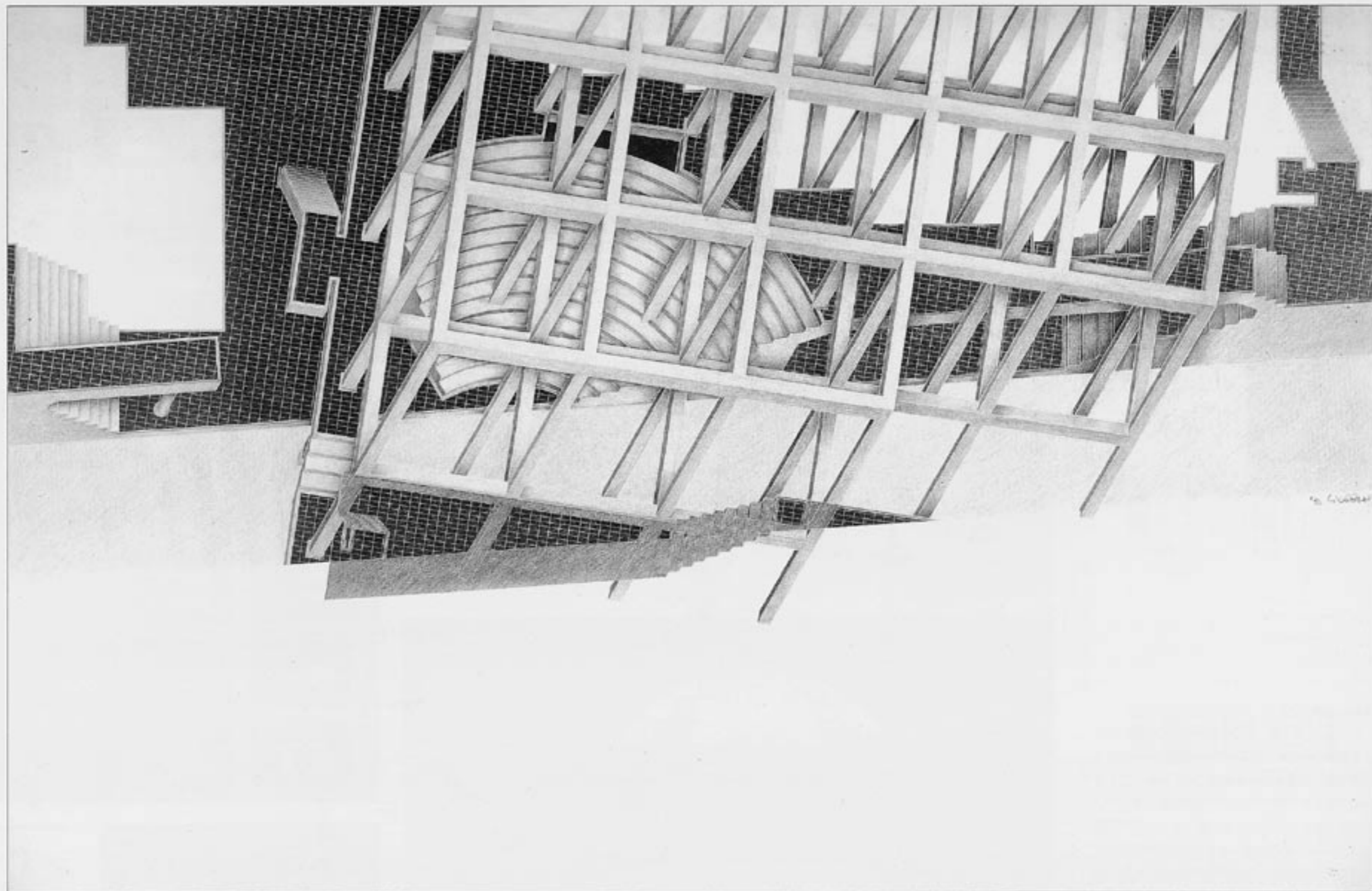


RO-JI in KYOTO

川島 茂



■設計主旨

大きくて、複雑で、たくさんの事々の潜む場所を体験することで、人たちは何を感しているのかわからない。ひとりの計画者の思い込みがそのまま彼らに伝わるとは思っていない。ただ、彼らの記憶と計画者の意図との接点があるところに期待しながら自らの連続をやり過ごしている。

京都という町が、どんなふうにも絡み合えようとしてきた。京都はそれとはあまりに遠く離れたところに位置している。ありふれたキャッチコピーの内にある京都というロゴよりも、もっと美しく、新鮮であるはずのリアリティーが人たちに語りかけることはほんのささやかな営みの内にある。けれども、雑踏のなかでそれを知るには、あまりに人たちは無関心で、彼らの注意は多くの情報の方に向けられてしまっている。それでも、シッパとセンチな心持ちだけは持ち続けようとしているし、そうせざるには巨大都市ですごすには困難なこともたくさんあるのかもしれない。

とかくローカリズムの克服する時代だけれども、ライト・コーンに包まれた空間に中華思想のエッセンスを溶かしこんでみたら、きっとこんなじゃないかと思っている。どうぞ、ご賞味あれ……。

